

2016年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社ミスホメディー(証券コード4595)

2016年8月10日

- I 会社概要**
- II 事業概要**
- III 2016年12月期 第2四半期決算実績と
2016年12月期 通期業績予想**
- IV 今後の成長戦略**

I 会社概要

会社概要



商号	株式会社 ミズホメディー（証券コード4595）
設立	1977年11月2日
本社所在地	佐賀県鳥栖市藤木町5番地の4
代表者	代表取締役会長兼社長 唐川文成
従業員数	143名（2016年6月30日現在）
事業内容	診断薬事業…病院・開業医向け体外診断用医薬品の開発製造販売 OTC事業…OTC（薬局・薬店）向け検査薬の開発製造販売
主要取引先	東邦薬品株式会社、株式会社メディセオ、アルフレッサ株式会社 株式会社バイタルネット、株式会社PALTAC、富士フィルム株式会社 等
営業網	本社、東京営業所、大阪営業所、名古屋営業所、各地駐在
開発拠点	佐賀県鳥栖市 本社工場

※OTC(Over The Counter)： 医師の処方箋がなくても購入できる医薬品
薬局、薬店、ドラッグストアなどでカウンター越しに販売することに由来した名称

Ⅱ 事業概要



病院・開業医分野

平成27年売上実績
3,547百万円

免疫血清
POCT



開発中

遺伝子
POCT



生化学

OTC・その他分野

平成27年売上実績
534百万円

OTC



農業



※POCT (Point of Care Testing) : 診察室, 病棟及び外来患者向け診療所など、患者に近い医療現場での検査

① POCT製品



クイック チェイサー シリーズ

大病院からクリニックまで、様々なお客様のニーズに応えるPOCT製品シリーズ

<p>インフルエンザウイルス</p> <p>インフルエンザウイルス 判定時間 10分</p>	<p>アデノウイルス</p> <p>Adeno 判定時間 7分</p>	<p>RSウイルス</p> <p>RSV 判定時間 15分</p>	<p>溶血連鎖球菌</p> <p>Strep A 判定時間 5分</p>
<p>肺炎球菌 【新製品】</p> <p>肺炎球菌 判定時間 10分</p>	<p>RSV/hMPV 【新製品】</p> <p>RSV hMPV 判定時間 10分</p>	<p>ノロウイルス</p> <p>Noro 判定時間 10分</p>	<p>ロタ・アデノウイルス</p> <p>7チノ ロタ 判定時間 5分</p>
<p>HBV (B型肝炎)</p> <p>HBsAg 判定時間 15分</p>	<p>HCV (C型肝炎)</p> <p>HCV 判定時間 15分</p>	<p>TPAb (梅毒)</p> <p>TPAb 判定時間 15分</p>	<p>便潜血</p> <p>便潜血 (Hb, TF) 判定時間 20分</p>

② POCT機器試薬システム



➤ 高感度迅速診断システム（富士フイルム(株)との共同開発）

- ・当社メンブレン技術と富士フイルム(株)の機器製造ノウハウを融合して実現
- ・インフルエンザウイルス、アデノウイルス、A群β溶血連鎖球菌抗原、RSV/Adeno同時検出キットをラインナップ

デンシトメトリー分析装置

クイックチェイサー Immuno Reader



クイックチェイサー Autoシリーズ

Flu A,B



Strep A



Adeno



RSV/Adeno

製品の特長

1. 早期診断が可能
(発症初期の診断精度向上)
2. 装置による結果判定
(判定結果はモニター表示とプリントアウト)

OTC・その他分野の主な製品

OTC (薬局・薬店) 向け製品



➤ 妊娠検査薬 排卵日検査薬

・自社ブランド「P-チェック」での販売や大手チェーン店とのPB提携も実施

「妊娠検査薬は早期に展開しシェアトップ」

「日本製」

製品の特長

1. 妊娠検査薬
 - ・ 99%以上の正確さ
 - ・ 1分から判定可能
 - ・ 初めての方でも簡単に検査可能
2. 排卵日検査薬
 - ・ 妊娠しやすい時期を的確に予知
 - ・ 個人差無く検出できるライン

➤ 妊娠検査薬



➤ 排卵日検査薬



**Ⅲ 2016年12月期 第2四半期決算実績と
2016年12月期 通期業績予想**



➤ 業績ハイライト

- ✓売上高 2,153百万円（前年同期比 7.2%増、予想比4.6%減）
- ✓営業利益 140百万円（前年同期比17.8%減、予想比5.4%増）
- ✓経常利益 141百万円（前年同期比16.7%減、予想比6.9%増）
- ✓四半期純利益 98百万円（前年同期比 5.3%減、予想比3.4%増）

➤ ポイント

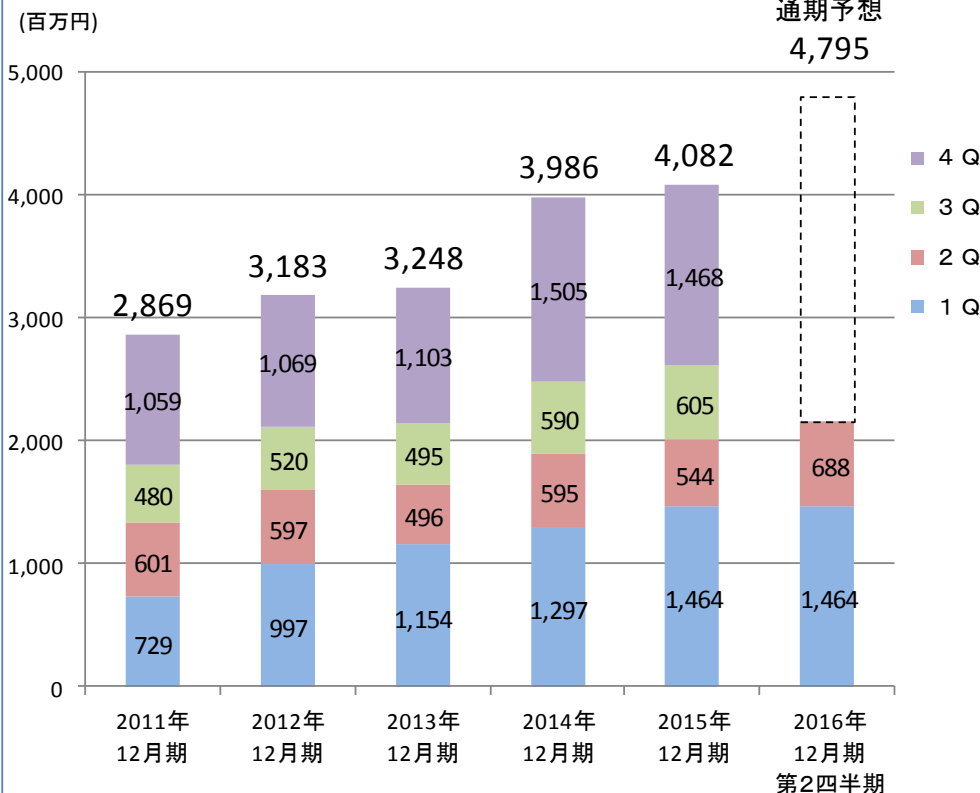
- ✓前年同期比では、増収なるも、販売費及び一般管理費の増加により、各利益は減益
- ✓予想比では、減収なるも、各利益は増益（おおむね計画どおりに推移）
- ✓通期業績予想は変更なし

2016年第2四半期決算実績 業績の推移(売上高、経常利益)

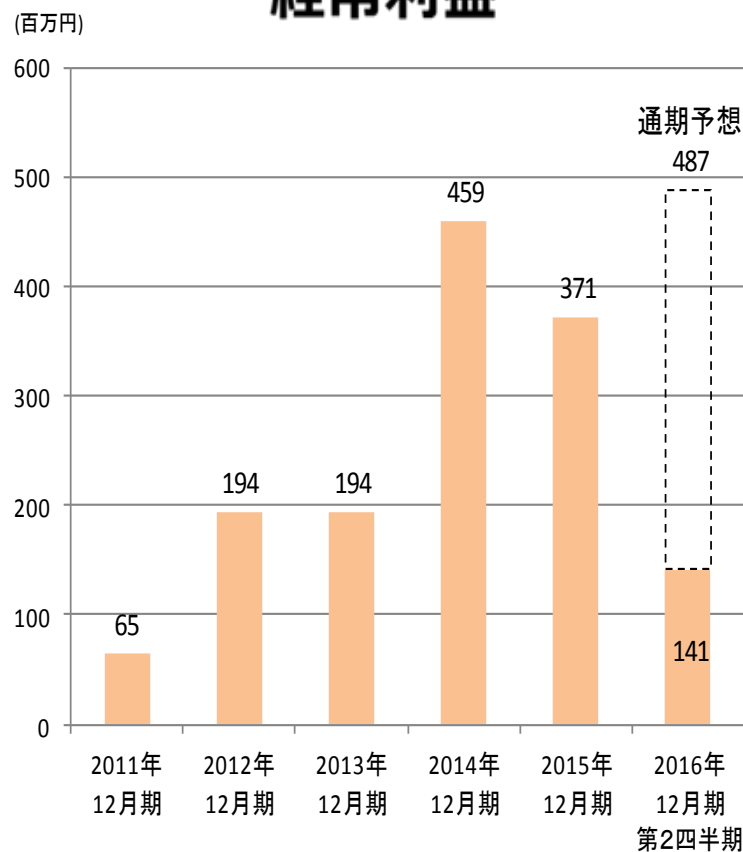


- 2011年12月期より増収増益基調
- 売上高及び経常利益は、インフルエンザ流行期（第1、第4四半期）に集中

売上高



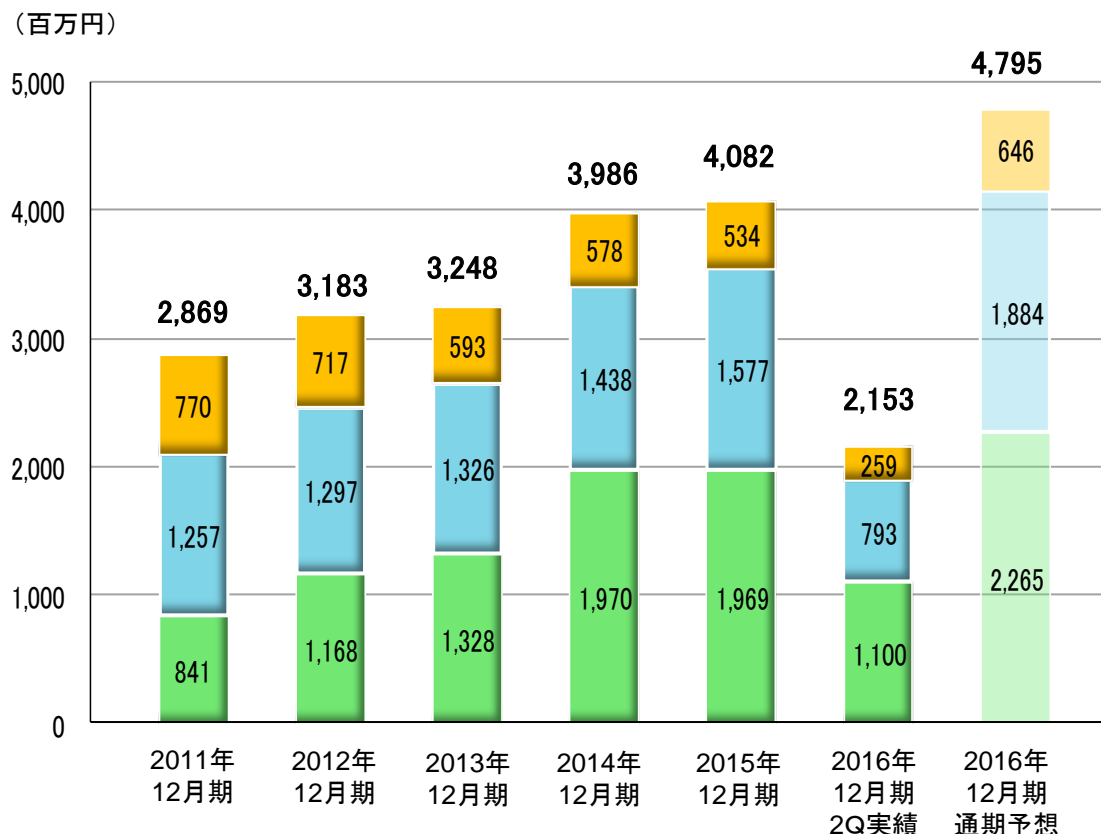
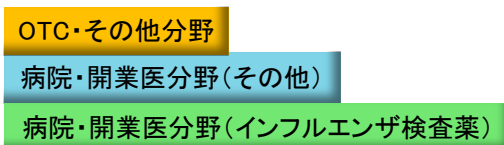
経常利益



2016年第2四半期決算実績 市場分野ごとの売上高推移



市場分野ごとの売上高



2016年第2四半期累計期間実績

◆ 病院・開業医分野(1,893百万円)

◇ インフルエンザ検査薬(1,100百万円)

- ✓ 例年に比べ流行が1ヶ月遅れるも
- ✓ イムノリーダーの累計販売台数増加に伴い試薬の売上高が伸長し、増収

◇ その他(793百万円)

- ✓ その他感染症POCT検査薬は、増収基調継続(アデノウイルス、A群β溶連菌、ノロウイルス、ロタ/アデノなど)
- ✓ 新製品の発売開始(肺炎球菌、ヒトメタニューモウイルス検査薬など)

◆ OTC・その他分野(259百万円)

- ✓ 妊娠検査薬及び排卵日検査薬は、販促企画等で売上拡大を図るも苦戦

2016年第2四半期決算実績 損益計算書（前年同期比、予想比）



- 売上高 2,153百万円（前年同期比 7.2%増、予想比4.6%減）
- 経常利益 141百万円（前年同期比16.7%減、予想比6.9%増）
 - ✓前年同期比では、増収なるも、販売促進費、研究開発費及び人件費などの増加により、各利益は減益
 - ✓予想比では、減収なるも、各利益は増益（おおむね計画どおりに推移）

（百万円）

	2015年12月期		2016年12月期							
	2Q累計実績		2Q累計予想		2Q累計実績		前年同期比		予想比	
	金額	構成比 %	金額	構成比 %	金額	構成比 %	増減額	増減率 %	増減額	増減率 %
売上高	2,009	100.0	2,255	100.0	2,153	100.0	144	7.2	△102	△4.6
差引売上 総利益	1,326	66.0	1,561	69.2	1,463	68.0	136	10.3	△98	△6.3
販売費及び 一般管理費	1,155	57.5	1,428	63.3	1,322	61.4	166	14.4	△105	△7.4
営業利益	170	8.5	133	5.9	140	6.5	△30	△17.8	7	5.4
経常利益	169	8.4	132	5.9	141	6.6	△28	△16.7	9	6.9
四半期 純利益	104	5.2	95	4.2	98	4.6	△5	△5.3	3	3.4

（注）当社は、2015年第2四半期累計期間につきましては四半期財務諸表を作成しておりませんので、参考数値となります。

2016年第2四半期決算実績 貸借対照表①(資産)



□ 当社第2四半期 B/S の特徴 (季節変動)

- インフルエンザの季節変動の影響により、第2四半期会計期間においては、インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が集中し、それに伴い短期借入金が増加
- このため第2四半期末の資産及び負債は、期末に比べ減少する傾向あり

(百万円)

	2015年12月期 前期末	2016年12月期 2Q末	増減額
流動資産	2,408	1,886	△522
現金及び預金	41	284	242
受取手形及び売掛金	1,467	615	△851
たな卸資産	868	954	86
その他流動資産	32	33	0
固定資産	1,081	1,117	35
有形固定資産	884	926	42
無形固定資産	5	5	0
投資その他の資産	192	184	△7
資産合計	3,490	3,004	△486

・現金及び預金 +242百万円 → 売上債権の回収に伴う増加

・受取手形及び売掛金 △851百万円 → インフルエンザ検査薬の売上債権の回収に伴う減少

2016年第2四半期決算実績 貸借対照表②(負債・純資産)



(百万円)

	2015年12月期 前期末	2016年12月期 2Q末	増減額
流動負債	1,052	582	△470
支払手形及び買掛金	389	224	△164
短期借入金	349	81	△268
その他流動負債	314	276	△37
固定負債	848	821	△26
長期借入金	265	225	△40
その他固定負債	582	596	13
負債合計	1,900	1,403	△496
株主資本	1,589	1,599	10
資本金	464	464	—
資本剰余金	274	274	—
利益剰余金	850	860	10
純資産合計	1,589	1,600	10
負債純資産合計	3,490	3,004	△486

- ・支払手形及び買掛金 △164百万円 → 主にインフルエンザ検査薬に係る仕入債務の支払による減少
- ・短期借入金 △268百万円 → 売上債権回収に伴う返済による減少(2Q末残高 81百万円は1年内長期借入金)
- ・利益剰余金 +10百万円 → 四半期純利益 98百万円、2015年12月期配当金 △88百万円

2016年第2四半期決算実績 キャッシュ・フロー計算書



□ 当社第2四半期 C / F の特徴（季節変動）

- インフルエンザの季節変動の影響により、第2四半期会計期間においては、インフルエンザ検査薬に係る売上債権の回収が集中し、それに伴い短期借入金が増加
- このため第2四半期は通期に比べ、営業活動によるキャッシュ・フローが増加し、財務活動によるキャッシュ・フローが減少する傾向あり

(百万円)

	2015年12月期 2Q	2015年12月期	2016年12月期 2Q	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	813	17	681	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の減少(+851百万円) ・税引前四半期純利益(+141百万円) ・仕入債務の減少(△161百万円) ・たな卸資産の増加(△86百万円) ※2015年12月期は、インフルエンザ検査薬に係るたな卸資産の備蓄(約220百万円)により、17百万円にとどまる
投資活動による キャッシュ・フロー	△44	△61	△36	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得(△35百万円)
財務活動による キャッシュ・フロー	△430	46	△402	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の純減(△268百万円) ・配当金の支払(△87百万円) ・長期借入金の返済(△40百万円)
現金及び現金同等 物の増減額	338	2	242	
現金及び現金同等 物の期首残高	38	38	41	
現金及び現金同等 物の四半期末残高	377	41	284	

(注) 当社は、2015年第2四半期累計期間につきましては四半期財務諸表を作成しておりませんので、参考数値となります。

2016年12月期 通期業績予想



- 2016年12月期 第2四半期累計実績は、おおむね計画どおりに推移
- 通期予想も、当初計画どおりを想定（売上高17.5%増、経常利益31.1%増）
 - ✓ 病院・開業医分野 – インフルエンザ検査薬をはじめ感染症POCTは、増収基調持続を予想
 - ✓ OTC・その他分野 – 排卵日検査薬のスイッチOTCや大手医薬品メーカーとの提携による増収を予想

(百万円)

	2015年12月期		2016年12月期				
	前期実績		2Q累計実績		通期予想		前期比 増減率 (%)
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	
売上高	4,082	100.0	2,153	100.0	4,795	100.0	17.5
売上総利益	2,660	65.2	1,463	68.0	3,132	65.3	17.7
販売費及び 一般管理費	2,272	55.7	1,322	61.4	2,641	55.1	16.2
営業利益	388	9.5	140	6.5	491	10.2	26.5
経常利益	371	9.1	141	6.6	487	10.2	31.1
当期純利益	257	6.3	98	4.6	352	7.3	36.7

IV 今後の成長戦略

▶ 技術をベースにしたハイブリッドな成長戦略

技術革新
[ウイルス・細菌の検出に特化]

自社開発・製造・販売一貫体制

<病院・開業医分野>

- ①クイックチェイサーの対象疾患の拡大
ーウイルス分野から細菌分野への市場創出
- ③遺伝子POCT機器・試薬の開発
ー感染初期の確定診断への需要増大
- ④多項目マルチ検査システムの開発
ー正確性、迅速性への更なるニーズ

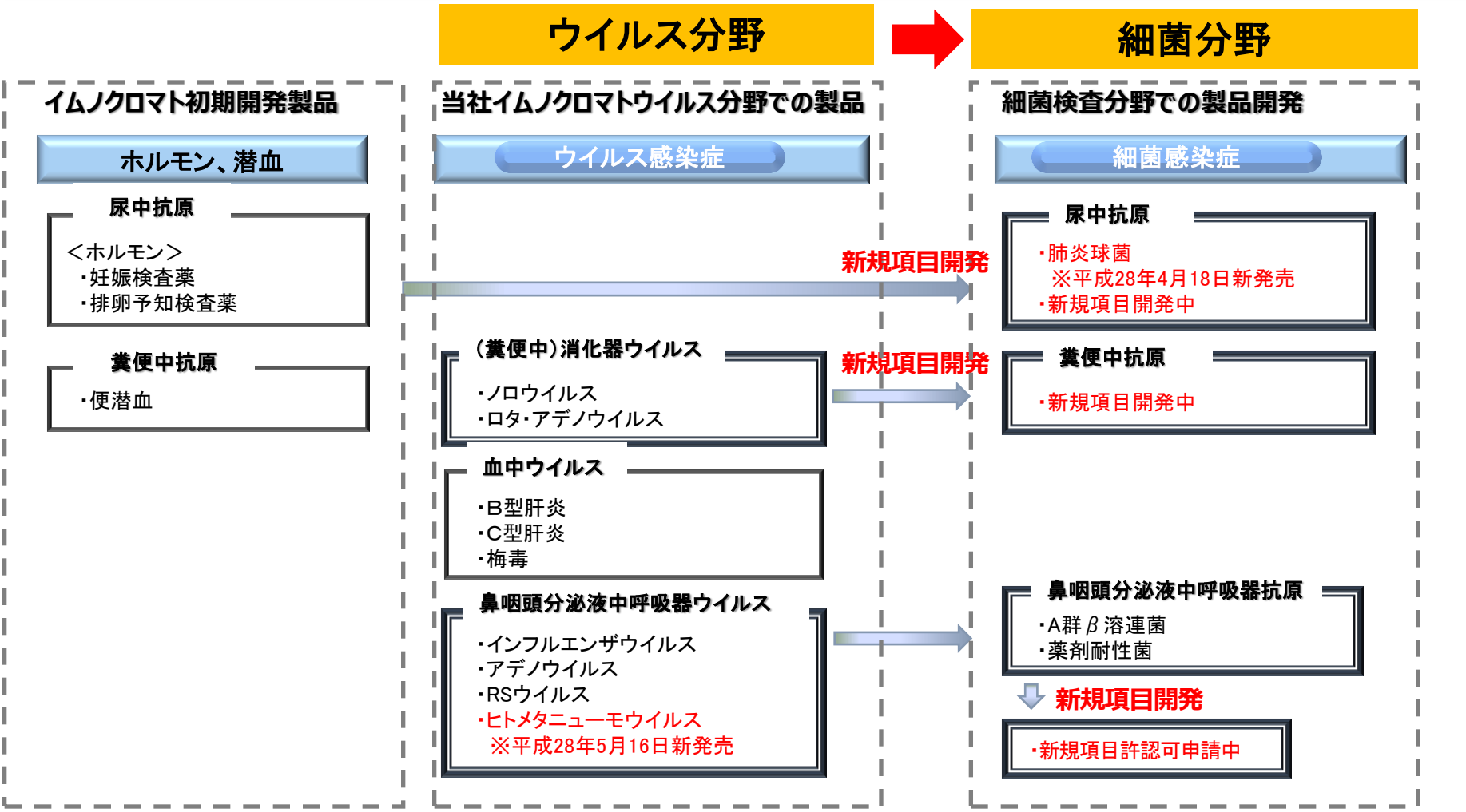
<OTC・その他分野>

- ②スイッチOTCマーケットでの拡大
ースイッチOTC製品の先発販売
- ⑤環境・食品検査分野への応用開発
ー遺伝子POCT技術を応用した環境
・食品微生物検査への展開

自社一貫体制の強みを活かした両分野での成長戦略によって
安定的収益を上げながらの成長を実現



➤ ①.クイックチェイサーシリーズの拡大



➤ ②.加速するスイッチOTCマーケットでの業績拡大

政府主導のスイッチOTC化

- 平成25年日本再興戦略方針において、薬局を拠点に地域に密着したセルフメディケーションの推進を提唱
- OTC検査薬の許認可制度の構築をはじめ、スイッチOTC化が政府主導で進行中

関連プレイヤーの動向

- **大手医薬品メーカーの検査薬市場参入**

当社のポジション

- OTC検査薬市場の主力製品である妊娠検査薬販売国内1位（2014年富士経済調べ）
- ドラッグストア各社とのリレーション
- 今後スイッチOTC化が見込まれる項目群を医療用診断薬として既に製造販売

当社の取組

- **スイッチOTC製品の先発販売（排卵日検査薬、便潜血検査薬のOTC申請中）**
- **大手医薬品メーカーとの販売提携（平成28年2月 武田薬品工業(株)と売買基本契約締結）**
- **ドラッグストアOEM供給の拡大**

③-1. 遺伝子検査マーケットと将来展望

遺伝子検査の現状

- 検査施設** 検査センター, 大学病院, 機関病院
- 装置** 大型装置, 遺伝子抽出, 増幅, 検出セパレート型の装置
- 検査項目** 感染症多検体処理 (HCV, HBV, HIV, 結核菌, クラミジア, 淋菌, パピローマ)

技術革新
検査拡大

遺伝子検査の拡大

- 検査施設** 一般病院検査室、開業医
- 装置** 一体型機、低コスト化
- 検査項目** 感染症 (呼吸器、消化器感染症全般) 薬剤耐性菌

マーケット
拡大

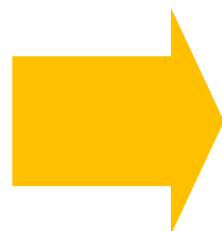
潜在遺伝子検査市場の創出(保険収載)

呼吸器・消化器感染症診断市場を主に新たな遺伝子検査項目の保険収載とマーケット拡大

➤ ③-2. 遺伝子検査による確定診断機器・試薬システムの開発

感染症診断へのニーズ

- ・POCT検査による感染症診断の限界
 - ・初期の見逃しが存在
- ・高感度検査法の限界
 - ・検査日数がかかる
 - ・特殊機器が必要



遺伝子診断のPOCT化

- ・感染初期の治療・投薬が可能
- ・死亡率の低下
- ・重篤化の低減
- ・院内，家族内感染など
水平感染の防止

当社の対応

イムノクロマトPOCT試薬にて培った
1デバイス内処理技術により
遺伝子POCT検査を実現

- ・メンブレン技術による簡易 遺伝子抽出技術
- ・遺伝子増幅技術
- ・迅速かつ高精度な検出技術



遺伝子検査の全てを

1台の小型装置に集約（開発中）

- ・1ステップ^o
- ・短時間
- ・安価



IRに関するお問い合わせ先

株式会社ミズホメディー 総務部

電話：0942-85-0303

e-mail：ir@mizuho-m.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。